

Weekly Market Recap

Japan | July 10, 2017

Q. 先週の主なイベントは？

- 7月3日 米国:6月ISM製造業景気指数、実績57.8、前月54.9
- 7月7日 米国:6月雇用統計、非農業部門雇用者数の前月差、実績+22.2万人、前月+15.2万人

Q. 先週の日本株式市場の動きは？

日経平均株価は、週間で0.5%下落し、節目の2万円を下回った。日米の10年金利差は拡大し、円安が進行したものの、欧米の金利上昇への警戒感から、世界的に株価が伸び悩んだことなどが株価を押し下げた。

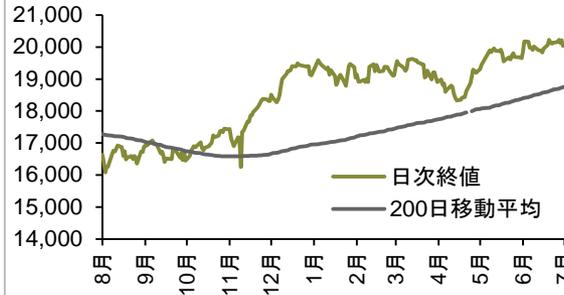
Q. 今週の主なイベントは？

- 7月12日 カナダ:中銀金融政策会合、市場予想は0.25%の利上げ
- 7月12-13日 米国:FRB(米連邦準備理事会)議長の半期議会証言
- 7月14日 米国:6月消費者物価指数、市場予想前年比+1.7%

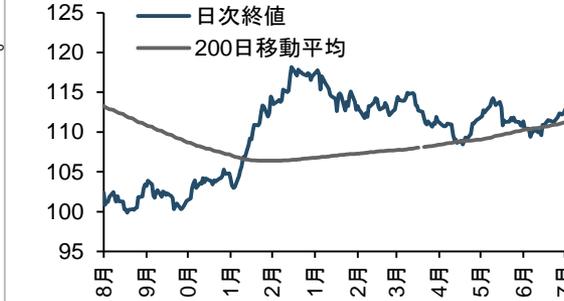
Q. 世界的な金利上昇が懸念される中、今後の相場見通しは？

- 【今後の相場見通し】 金融市場は大きく次の4つの局面に分かれる:
 - ① 金利上昇と株価上昇:『業績相場』景気堅調で、株を買って債券を売る。
 - ② 金利低下と株価下落:『業績相場』の逆。
 - ③ 金利低下と株価上昇:『金融相場』カネ余りだから、株も債券も買う。
 - ④ (長期)金利上昇と株価下落:『金融相場』の逆。引き締めが嫌気される。
- 9月19-20日のFOMC(連邦公開市場委員会)頃までは、③と④を繰り返す、株価も長期金利もレンジ推移となると考える。根拠は次のとおり;
- 【景気の観点】 ①や②の相場展開が、持続的に続くとは考えにくい。
 - まず、米中を中心に、景気や物価は一時の力強さを失っているように見える。昨年後半から今年の年初にかけて見られたような、米・欧・中・日の景気が揃って加速を続ける展開の再開は想定しづらい。したがって、力強い業績相場(=①)が長く続く可能性は低いと見る。
 - その反面、米国の景気拡大が急速に減速したり、景気後退に陥ったりすることは想定しづらく、②の持続は考えにくい。
- 【金融政策の観点】 ③と④を繰り返す相場展開が予想される。
 - FRBやECB(欧州中央銀行)は、次の景気後退時の金融緩和余地を残しておくためにも、現在の景気拡大局面において資産価格が急上昇することを防ぐためにも、過度な金融緩和から脱却したいという意向があるだろう。今までのリスク資産市場は、金融緩和や低金利で上昇してきた分、今後とも、金融引き締め観測が台頭すれば、リスク回避的になるのは自然だろう(→最近と同じ④のパターン)。
 - しかしながら、結局のところ、金融市場が引き締めを恐れ、調整を見せる場合には、中央銀行は利上げなどの引き締めを後ずれさせるだろう。まだまだインフレ圧力は鈍いため、中銀としては「株価下落→景況感悪化→実体経済への悪影響」の経路を最も恐れるはずである。したがって、緩和的な政策がリスク資産価格を下支えすると考える(=③)。
- 【今後の投資戦略】 以上の通り、大きく見れば、株価も長期金利もレンジ推移となるのであれば、株や債券への分散投資を徹底しつつ、比較的高い配当収入や利息収入で安定的にリターンを獲得する戦略が望ましいと考える。同時に、投資戦略の前提となる相場見通しに変更がないかを見極めるために、景況感や物価などの経済指標の動向を、注視し続けたい。

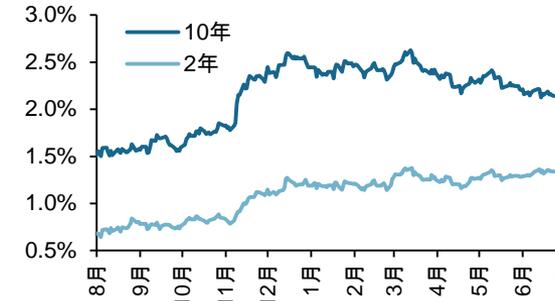
日経平均株価の推移
(円、2016年8月1日~2017年7月7日)



ドル・円相場の推移
(1ドル=円、2016年8月1日~2017年7月7日)



米国2年国債・10年国債利回りの推移
(2016年8月1日~2017年7月7日)



国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
日経平均株価	19,929	-0.5%	-0.3%	4.3%
東証株価指数(TOPIX)	1,607	-0.3	0.6	5.8
東証REIT指数	1,662	-1.9	-5.8	-10.4
米ダウ平均株価	21,414	0.3	1.1	8.4
米S&P500指数	2,425	0.1	-0.3	8.3
米MSCI REIT指数	1,138	-1.4	-1.1	-0.8
MSCI ワールド(先進国)	1,913	-0.2	-0.7	9.2
MSCI AC欧州	450	0.0	-1.2	12.7
MSCI エマージング	1,002	-0.8	-1.3	16.3
MSCI エアアジア(日本を除く)	620	-0.8	-1.0	20.6

外国為替市場(対円)

通貨	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米ドル	113.92	1.4%	3.7%	-2.6%
ユーロ	129.92	1.2	5.1	5.7
豪ドル	86.64	0.2	4.5	2.9
ニュージーランドドル	82.95	0.7	5.0	2.4
ブラジル・リアル	34.72	2.2	3.4	-3.4
メキシコ・ペソ	6.30	1.6	4.6	11.7
トルコ・リラ	31.49	-1.3	1.8	-5.9
南アフリカ・ランド	8.50	-0.9	-0.6	-0.3
中国元人民元	16.76	1.2	4.2	-0.3
インドネシア・ルピア(x100)	0.85	0.7	2.8	-2.2

国債市場(利回り、%)

国	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
米国10年	2.39	0.08	0.21	-0.06
ドイツ10年	0.57	0.11	0.30	0.37
日本10年	0.09	0.00	0.04	0.04
ブラジル2年	8.96	-0.13	-0.61	-2.07
メキシコ2年	6.66	0.06	-0.43	-0.13
トルコ2年	11.44	0.32	0.35	0.81
インドネシア2年	6.91	0.45	0.39	-0.56

その他

商品	前週末	1週間	1ヵ月間	年初来
金先物(ニューヨーク、期近物)	1,209	-2.6%	-6.5%	5.0%
原油先物(ニューヨーク、期近物)	44	-3.9%	-3.3%	-17.7%
VIXボラティリティ指数	11.0	0.1%	7.7%	-20.3%

Weekly Market Recap

Japan | July 10, 2017

出所: Bloomberg Finance L.P., J.P. Morgan Asset Management

本資料はJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が作成したものです。本資料に記載の見通しは投資の助言や推奨を目的とするものではありません。また、J.P.モルガン・アセット・マネジメントあるいはそのグループ会社において記載の取引を約束するものでもありません。予測、数値、意見、投資手法や戦略は情報提供を目的として記載されたものであり、一定の前提や作成時点の市場環境を基準としており、予告なく変更されることがあります。記載の情報は作成時点で正確と判断されるものを使用していますが、その正確性を保証するものではありません。本資料では、お客さまの投資判断に十分な情報を提供してならず、証券や金融商品への投資のメリットをお客さまが自身で評価するにあたって使用するものではありません。また、かかる法務、規制、税務、信用、会計に関しては、個別に評価し、投資にあたっては、投資の目的に適合するかどうかに関しては専門家の助言とともに判断してください。投資判断の際には必要な情報をすべて事前に入手してください。投資にはリスクが伴います。投資資産の価値および得られるインカム収入は市場環境や税制により上下するため、投資元本が確保されるものではありません。過去のパフォーマンスおよび利回りは将来の成果を示唆・保証するものではありません。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。本資料は、以下のグループ会社により発行されたものです。

ブラジル: バンコ・J.P.モルガンS.A. (ブラジル)、英国: JPモルガン・アセット・マネジメント(UK) リミテッド、英国以外のEU諸国: JPモルガン・アセット・マネジメント(ヨーロッパ) S.à r.l.、スイス: J.P.モルガン(スイス) SA、香港: JFアセット・マネジメント・リミテッド、JPモルガン・ファンズ(アジア) リミテッド、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(アジア) リミテッド、インド: JPモルガン・アセット・マネジメント・インディア・プライベート・リミテッド、シンガポール: JPモルガン・アセット・マネジメント(シンガポール) リミテッド(Co. Reg. No. 197601586K)、JPモルガン・アセット・マネジメント・リアル・アセット(シンガポール) プライベート・リミテッド(Co. Reg. No. 201120355E)、台湾: JPモルガン・アセット・マネジメント(台湾) リミテッド、JPモルガン・ファンズ(台湾) リミテッド、日本: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第330号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会)、韓国: JPモルガン・アセット・マネジメント(コリア) カンパニー・リミテッド、オーストラリア: JPモルガン・アセット・マネジメント(オーストラリア) リミテッド(ABN 55143832080)(AFSL 376919)(Corporation Act 2001 (Cth) 第761A条および第761G条で定義される販売会社に配布が限定されます)、カナダ(機関投資家限定): J.P.モルガン・アセット・マネジメント(カナダ) インク、米国: JPモルガン・ディストリビューション・サービス・インク(FINRA/SIPC会員)、J.P.モルガン・インベストメント・マネージメント・インク

本資料は、アジア太平洋地域において、香港、台湾、日本およびシンガポールで配布されます。アジア太平洋地域の他の国では、受取人の使用に限りです。

【ご留意事項】 お客さまの投資判断において重要な情報ですので必ずお読みください。投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、財務状況等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。

◆ご注意していただきたい事項について: 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、購入、換金の申込の受付を行わない場合があります。投資信託によっては、クローズド期間として原則として換金が行えない期間が設けられていることや1回の換金(解約)金額に制限が設けられている場合があります。分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

◆ファンドの諸費用について: 投資信託では、一般的に以下の手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 購入時手数料(上限3.78%(税抜3.5%))、信託財産留保額

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額(上限0.5%)

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)(上限年率2.052%(税抜1.9%))

*費用の料率につきましては、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しています。その他、有価証券の取引等にかかる費用、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税等の実費(または一部みなし額)および監査費用のみなし額がかかります(投資先ファンドを含みます)。また、一定の条件のもと目論見書の印刷に要する費用の実費相当額またはみなし額がかかります。

◆すべてのインデックスは実際に運用されているものではなく、各投資家が直接投資できるものではありません。また、インデックスのリターンは手数料・費用が考慮されておりません。日経平均株価に関する著作権、知的所有権その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は日経平均株価を継続的に公表する義務を負うものではなく、その誤謬、遅延又は中断に関して責任を負いません。©日本経済新聞社。S&P Dow Jones Indices LLCの各インデックスは、S&P Dow Jones Indices LLCが発表しており、著作権はS&P Dow Jones Indices LLCに帰属しています。MSCIの各インデックスは、MSCI Inc.が発表しています。同インデックスに関する情報の確実性および完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。著作権はMSCI Inc.に帰属しています。株式会社東京証券取引所が発表する各インデックスは、株式会社東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、ファンドは、東証等により提供、保証または販売されるものではなく、東証等は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。シティの各インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権はCitigroup Index LLCに帰属しています。Bloombergの各インデックスは、Bloomberg Finance L.P.が発表しており、著作権はBloomberg Finance L.P.に帰属しています。

Copyright 2017 JPMorgan Chase & Co. All rights reserved

Material ID: 0903c02a81e55a64